今月のトピックス

特集 会社訪問 -No.32
松戸運送株式会社 様

「今の会社で元気に長く働きたい」従業員の思いに応えて健康への取り組み強化

昭和 29 年に設立以来、松戸市を本拠に歴史を積み重ねてきた松戸運送㈱。今年４月には、梅澤朋彦氏が新社長に就任し、同社の新たな歴史が始まった。

同社では、「いつまでも同社で元気に働きたい」という従業員の希望を叶えるべく、従業員だけではなくその家族も巻き込んだ形での健康づくりに注力。その取り組みが評価され、同社は経済産業省「健康経営優良法人 2021（中小規模法人部門）」認定を受けた。

保冷バン型車による乳製品・食品輸送を主力にする同社。今年４月に就任したばかりの梅澤社長が、トラックの前でガッツポーズ

■協会活動への積極的な参加で教育の重要性を認識 経営改革実現に向けて飛躍を期す

松戸運送㈱は、昭和 29 年に松戸市内で初となる運送会社として設立された。設立当時は、松戸近郊で収穫された野菜を東京の市場に輸送していたほか、その頃はまだ下水道が整備されていなかったため、汲み取り事業も行っていたという。昭和 45 年に保冷バン型車を導入以降、乳製品や食品の輸送を開始。現在では、乳製品輸送が同社における事業の中心となっている。また、平成元年以降は、東京都葛飾区や荒川区などの学校給食で提供される牛乳の配送のほか、ユニック車を導入して住宅基礎鉄筋の輸送も手がけている。

同社のドライバーの平均年齢は 54 歳と、比較的高くなっている。昨年度、梅澤社長はドライバー全員と面談を行い、今後の同社での働き方についてどのように考えているかを尋ねた。すると、全てのドライバーが「定年（65 歳）後も同社で長く働きたい」と答えたという。梅澤社長は、「ドライバーが『当社で長く働きたい』と希望しているのだから、経営者としてはそれを実現できるよう、ドライバーに対して奉仕していかなければならない」と決意。ドライバーに同社で長い間元気に働いてもらえるような環境づくりの一環として、「健康づくり」に力を入れるようになった。

同社における健康づくりの最大のポイントは、「従業員だけでなく、その家族も巻き込んだ形で健康づくりを進めていく」ことである。

昨年以降、全国的に新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けており、運送事業者でも営業所内にクラスターが発生し、輸送が滞るといった影響が出ているところもある。同社ではこうした状況を踏まえ、いち早く PCR 検査キットを導入した。

従業員やその家族のなかには、

「保育施設で感染者が出た。子供が感染していないか心配」

「風邪の様な症状があるので病院に行った」とういう理由で医療機関に行き検査を申し出るも、「本人に症状がないから」、「濃厚接触者の連絡があってから」、「○日たって治らないようなら来て下さい」など、さまざまな事情で実施してもらえないケースもあるようです。

このような「感染しているか心配」な状態で、何日か経過し、陽性が確認された‥というケースを生じないために、検査キットを新たに導入し、各拠点に配備している。なお、これらの検査キットは従業員だけではなく、その家族に感染の心配がある場合にも使用可能としている。

また、同社では昨年 10 月から、受動喫煙対策の一環として車内の全面禁煙に踏み切った。それとともに、会社の費用負担によって禁煙外来の受診を可能としたが、同社では従業員だけではなく、その家族が禁煙外来を受診する場合にも費用負担を行い、受診を促すようにしている。

梅澤　朋彦　代表取締役

「家族がウイルスに感染すると、家庭内で拡がることでドライバーも感染してしまうおそれがあります。また、家族の喫煙によりドライバーが受動喫煙の影響を受けてしまうことで、健康が害され、万全な体制で乗務することができなくなってしまいます。従業員の健康づくりに取り組まれている事業者が増加傾向にありますが、当社では、自社の従業員だけではなく、日々乗務が続けられるようにバックアップして下さる家族の皆様の健康も考えなければならないと感じています。自分たちの家族が健康でなければ、ドライバーは毎日不安を感じながら乗務するようになり、運転に集中できずに事故を引き起こしてしまう可能性もあります。当社では、『従業員のご家族のことも大事にしたい』との思いから、従業員のご家族を含めた形での健康づくりに取り組んでいます」（梅澤社長）

ドライバーが健康な状態で乗務を続けるためには、健康診断を受診させ、所見があった場合には治療を受けさせるなど、病気の芽を確実に摘み取っていく必要がある。同社では、健診の結果所見が認められたドライバーに対して、「病院受診のおねがい」と題した書面を手渡している。ドライバーの健康状態によっては、労働時間短縮や時間外労

住宅基礎鉄筋配送で使うユニック車を４台保有。丁寧な洗車は、従業員が車両を大事にしている証拠だ

「健康づくり」への取り組みを推し進めている同社。出勤時・退勤時には、従業員が血圧を測定する

梅澤社長は経営者として日々従業員たちの思い応え、従業員の希望を実現させるために奮闘を続けている

働制限などといった就業制限や、療養のために勤務を休む必要が出てくる可能性もある。同書面には、現在の健康状態で通常勤務ができるのか、あるいは勤務に何らかの制限を設ける必要があるのかを医師に記載してもらう欄が設けられており、主治医に記載してもらった上で会社に提出しなければ乗務を認めないようにしている。

「ドライバーの中には医師が作成した診断書を提出してくる人もいましたが、診断書では病名しか記載されないことも少なくなく、会社として具体的にどのように対応すればいいのかが分かりません。勤務に問題がないかどうかを医師に判断してもらうようにしたことで、会社として従業員の健康状態を的確に理解した上で、勤務と治療の両立を図りながら働いてもらえるようになりました」（同）

さらに、ドライバーの健康管理の観点から、同社の荷主企業である森永乳業㈱の機能性表示食品「森永トリプルヨーグルト　砂糖不使用ドリンクタイプ」を定期購入し、ドライバーや家族に配布し、食事と一緒に飲んでもらうという取り組みを行った。「トリプルヨーグルト」には、高めの血圧を下げるとともに、食後の血糖値や中性脂肪の上昇をおだやかにする効果があり、ドライバーからは「おいしいから、無理せずに健康対策を続けられる」「血圧を測るのが楽しみになった」との声が寄せられたという。

「お客様からお預かりした大切な荷物を運ぶ運送事業者のドライバーにとって、日々の健康管理は安全運行にも繋がってきます。今回の取り組みでは、当社のお客様の商品である『トリプルヨーグルト』を飲んで健康になった当社のドライバーが、安全にお客様の製品を運ぶという、運送事業者にとって理想的なものになっています」（同）

さて、梅澤社長は今年４月、先代社長の金子正一氏に代わり、46 歳で社長に就任した。梅澤社長と金子氏は叔父と甥の関係にある。金子氏にとって、梅澤社長は初めての甥であったことから、梅澤社長は金子氏や親族から「大きくなって、運送会社を継ぐのが楽しみだ」とよく聞かされていたという。自身も「いずれ運送会社を継ぐものだ」と考えていたが、梅澤社長が成人を迎える頃、親族との話し合いにより「30 歳になるまでは好きな仕事に就いても構わない」ということになり、26 歳で同社に入社するまでは宝石店など、運送会社以外の仕事に就いていた。

入社後、運送会社での経験がなかった梅澤社長は、２年間運送業界のことを独学で学ぼうとしたが、独学で学ぶのには限界があった。そこで梅澤社長は千葉県トラック協会の門を叩き、セミナーや講習に多数出席。それによって、運送業界への理解が飛躍的に広がっていったという。

「協会での業界の先輩方との出会いによって、人材教育の大切さを強く認識しました。当社ではドライバーに対して、自分たちで効率的な仕事の進め方を考えることができるようになってもらいたいとの思いから、積極的に運行管理者資格や安全衛生推進者資格を取得させるようにしています。これは、協会の様々な行事に積極的に参加し、自身が多くを学んだことで、自社の経営に繋がる豊富な情報を入手することができたと実感しているからです。松戸支部の会合などでも、協会についての私の体験を語り、もっと多くの方に協会活動への積極的な参加を促していきたいと考えています」（同）

今後の目標を梅澤社長に伺うと、「従業員と目標を共有し、それを達成できた暁には一緒に喜べるような会社にしていきたい」と答えた。

会社の進むべき道を一緒に考え、描いた理想の実現に向かって荷主に積極的に提案できるような人材を育てていくためには、高いレベルでの人材教育が欠かせない。

「ご家族も含めた形で当社の従業員が健康になり、安全運行を継続していけるようになることで、荷主の皆様からの当社を見る目が大きく変わってきます。荷主の皆様からのご理解をいただいた上で、運賃交渉を行い、適正運賃を収受することができるようになることで、当社の経営改革実現にも繋がってきます。今後、人材教育に一層力を入れて取り組み、経営改革実現に向けて経営者と一緒になって会社を盛り立てていくことのできる、そしていずれは経営のかじ取りを任せることのできるような人材を育成していくことが、私の最大の夢です」（同）

「トリプルヨーグルト URL」
https://triple-yogurt.jp/project/index.html

ホットにゅーす

■人生に良い刺激を与えてくれる親しい仲間たちとの様々な交流

社長就任１年目で、日々忙しく業務にいそしんでいる梅澤社長。休日になると、古くからの仲間たちと、釣りやキャンプ、サーキット場でのカーレース、乗馬など、様々なアクティビティを楽しんでいる。

そして、楽しい休日の締めにはみんなで風呂に入って汗を流すのが習慣になっており、手賀沼のほとりにある「天然温泉満天の湯」（柏市）に行くことが多いという。

「つかの間の息抜きができるとともに、運送業界以外の多彩な業界で頑張っている仲間たちと話を交わすことで、非常にいい刺激になっています」（同）

波照間島（沖縄県竹富町）にある「日本最南端平和の碑」の横に立つ梅澤社長

企業プロフィール
松戸運送株式会社
代表取締役　梅　澤　朋　彦
本　社　千葉県松戸市千駄堀 1503
従業員　62 人（ドライバー 58 人）
台　数　60 台